

八王子車人形

12月23日(木)、全校生徒を対象に、文化芸術による子供の育成事業の一環として、「八王子車人形」の鑑賞教室が行われました。2学年の生徒は鑑賞だけでなく、実際に日本の伝統芸能を演じる、貴重な体験になりました。講義、講演の後、質疑応答の時間もあり、伝統芸能の迫力に圧倒された生徒から多くの質問が出ていました。何よりも、今回舞台上で「演者」側の立場で体験した2年生にとっては、忘れられない体験になったことと思います。



「二人三番叟」より



「日高川入相花王」より

八王子車人形とは

八王子車人形とは、東京都八王子市において伝承されている人形劇です。「車人形」は文楽に似た人形を用いる人形劇で、3つの車が付いた箱形の車に腰掛けて1人が操る、特殊な一人遣いの人形芝居です。考案されたのは江戸末期と言われています。

今回の演目

- ①二人三番叟(ににんさんばそう)
- ②八王子車人形教室 【生徒体験・義太夫】
- ③日高川入相花王(ひだかがわいりあいざくら) 【生徒体験】

<舞台を体験した2年生の感想>

- ・体験前にビデオで義太夫節を初めて知った。実際にやってみると、三味線と合わせたり声の出し方のタイミングをはかったりと、やってみないと分からない難しさがあった。
- ・人形を動かす作業にかなり苦戦した。楽器や声の大きさに驚いたが、自分たちで実際にやってみると、また違う視点で舞台を楽しむことができた。
- ・舞台上の「波」を動かす体験では、本物の波に見せるため、腕を激しく振るなど、工夫をする作業が難しかった。
- ・私は車人形を担当し、左手で顔を、右手は人形の右腕を動かした。また、人形の足の棒を、自分の足の親指と人差し指の間にに入れて動かした。それぞれのタイミングが難しく、移動が大変だった。
- ・初めは義太夫が何を語っているのか、車人形が何を表現しているのか分からなかった。しかし、段々と物語の内容や太夫が伝えたいことが分かるようになりました。
- ・人形の仕組みに様々な工夫が施されていて、とても興味をもって参加することができた。本番では大きな声を出すことができ、とても気持ち良かったです。またやりたい!!

